

教員養成の目標及び目標達成のための教育計画

子ども学部教職課程

子ども学科

①教員養成の目的

子ども学科では、幼児期と児童期の子どもの教育に携わる教師、さらには家庭と連携して、両親の子育てを支援し、地域における子育て・教育ネットワークの中核的人材として活動できる教師の養成を目指している。

幼稚園教諭一種免許状と小学校教諭一種免許状とを卒業と同時に取得できる課程の設置により、「幼小の連携と接続」という時代の要請に応えるとともに、子どもの発達を総合的に理解し、的確に対応できる指導力と実践力を備えた教師の育成を図る。

②目標達成のための教育計画

子ども学科では、教職課程の質の向上と学生に対する責任ある教職指導を実現するために「教職課程委員会」を設置し、教科指導及び実習指導の充実を図っている。とくに小学校教育実習に関しては、「地域の子どもの教育を担う教師を、地域で育成する」という理念のもと、佐賀市教育委員会と協定を締結し、小学校教員免許状取得を希望する学生全員が佐賀市立の小学校で実習をしている。

事前指導においては、学校現場での ICT 教育に対応できるよう、電子黒板やタブレットを用いた模擬授業を導入している。さらに、4週間の実習期間中は、実習担当教員のみならず子ども学科の全教員が市内の小学校を巡回指導して担当教諭とコミュニケーションを計り、ひとりひとりの学生に対するきめ細かな指導を行っている。また、学生は、幼稚園や小学校での教育実習終了後も、実習校の依頼に応じて、ボランティアとして実習校の行事等に積極的に関わっている。

心理カウンセリング学科

①教員養成の目的

心理カウンセリング学科では、社会情勢の急変に伴い、学校現場において複雑・多様化している児童生徒の諸問題について、当該児童生徒だけでなく、その家族も視野に入れた心理教育的支援を実践できる教育の育成を目指す。

本学科の前身である臨床心理コースでは、障害を有する、または、心の支援を要する就学前から学齢期の子どもや成人、高齢者に対して、生涯発達の視点を取り入れた多種多様な支援活動を行ってきた。この生涯発達の視点は、教育者を志す学生にとって体得すべき重要な視点であり、複雑な社会を生き抜く力を有する子どもを育む際に欠かすことのでき

ないものである。また、教育実践の中では、子どもへの直接的支援を行うだけでは解決が望めない重要な課題も多く存在するため、子どもの課題の背景にある家族の力動や心理的影響を踏まえたアプローチを実践できることが望まれる。以上から、本学科では、「こころに寄り添い、こころを育むことができる教員」の育成を目指す。

②目標達成のための教育計画

心理カウンセリング学科では、心理学を基本に据えながら、高等学校教諭（公民）及び特別支援学校教諭（知的障害者・肢体不自由者・病弱者）の育成を行う。学習指導要領に示されているように、高等学校における道德教育、すなわち、人間としての在り方生き方に関する教育は、公民科を中心に行うものとされている。本学科では、子どもの発達への総合的な理解を深め、子どもの自己実現や社会適応を支援するための知識や技術を学ぶことで、公民科の教員が求められる資質・能力を学習する。

そして、高等学校教諭（公民）を基礎免許状に、特別支援学校教諭に係る教職課程を並行的に履修する。障害を有する子どもの多様化、複雑化、重複化するという現状に鑑み、その基本となる障害の心理学的理解は重要である。心理学の各分野及びカウンセリングの実習・演習系の科目を通して、障害のある子どもの行動とその背景を的確に理解し、支援できる教員の養成を行う。